

第3回宜野湾市地域公共交通推進協議会 議事概要

日 時:令和 5 年 3 月 29 日(水)15 時 00 分

場 所:宜野湾市中央公民館 2 階 集会室

1. 令和 5 年度 事業計画(案)及び予算(案)について

令和5年度宜野湾市地域公共交通推進協議会事業計画(案)及び予算(案)について審議を行い、承認頂いた。

2. 宜野湾市の公共交通を取り巻く問題点と課題について

公共交通を取り巻く課題について協議を行い、問題点・課題のとりまとめにあたっては会長に一任頂くことで承認頂いた。議事概要は以下のとおり。

No.	主な指摘・ご意見	回答・対応方針
1	✓ 県道 34 号（大謝名～真栄原区間）の渋滞解消が課題だと思うが、事務局としてどのように考えているか。 ✓ 高校生の送迎割合が多いという説明があったが、高校生は比較的路線バス利用者が多いと感じている。その要因はどのように考えるか。 ✓ 公民館への移動が困難という意見が多いということだが、公民館利用者は多いのか教えて頂きたい。 ✓ バス会社 4 社では、那覇市等においてバスの乗り方教室なども実施しており、将来のバス利用等の契機となれば幸いと考えている。 ✓ 西普天間住宅地区への対応等、より良い公共交通の確保に努めていきたい。 (小川委員)	✓ 県道 34 号渋滞対策は沖縄県において渋滞対策に取り組んでいるが、予算の関係もあり完了には至っていない。今後も沖縄県と連携して渋滞対策に取り組んでいきたい。 ✓ 高校生の送迎割合について⇒ 一例だが、登校時は送迎、下校時は路線バス利用といったように、登下校で交通手段が異なることも要因の一つとして推測される。 ✓ 公民館利用者について⇒ 各公民館では、週 1 回のミニデイサービス等やその他のイベントにおいて公民館に訪れる方が多いと考えられる。ヒアリング調査では、公民館までの徒歩移動が困難になってきたという意見が多数あった。

No.	主な指摘・ご意見	回答・対応方針
2	✓ 幹線道路については、バスの本数は確保されていることは理解しているが、公民館の立地は幹線道路から離れていることが多く、バスを利用できず移動が不便な状況である。 ✓ 高校生の通学に関する説明があったが、小中学生の送迎が多いことも問題である。小中学生においては徒歩で登校するには遠い地域がある。小中学生の送迎についても考えていいのではないかと。 (佐藤委員)	✓ 各地域の公民館については、幹線道路から離れている地域が存在することは認識している。高齢者等の移動支援について、今後どのように対応できるか検討したい。 ✓ 高校生の送迎に関する問題点・課題を整理したが、小中学生の送迎についても同様に問題点の一つとして認識している。今後は、モビリティマネジメントの必要性も含め検討したい。
3	✓ 公共交通の問題点として「高齢者の外出時の不便」について説明があったが、中城村の「護佐丸バス」は普天間・野嵩地区の移動手段として便利という声がある。たとえば、高齢者等は病院までの移動手段があれば便利だと思われる。高齢者の移動手段を検討頂きたい。 (大城委員)	✓ 課題の一つとして、「高齢者の外出時の不便」についても取り上げている。施策の骨子案において、「新たな移動サービスの導入検討」を位置づけており、高齢者の移動支援も含めて検討する。
4	✓ 資料4の課題において、「日常生活での移動を支える交通サービスの検討」、「高校生の送迎交通からの交通手段の転換促進」の説明があったが、スクールバスをイメージした小型コミュニティバスなどが導入できないか。 ✓ 親の送迎が習慣化している要因として、学校に遅刻させたくないという配慮からだと考えているが、沖縄県と県外との違いは、自力で公共交通に乗り込んで通学させる習慣がないと感じる。交通弱者が自力でできる移動手段があれば、公共交通の利用が大きく変わるはずである。新たな交通手段の導入に期待したい。 (崎原委員)	✓ 施策の骨子案において、「新たな移動サービスの導入検討」を位置づけている。 ✓ モビリティマネジメントの展開も含め、高校生の送迎交通抑制に努める必要があると認識している。

No.	主な指摘・ご意見	回答・対応方針
5	✓ 那覇市の場合、公民館の名称が付いたバス停があるため分かりやすい。バスを利用しやすい環境の形成に向けて自治会との創意工夫や連携が必要になってくると考える。 ✓ デマンド交通等を実施するにあたり、運転手の確保が厳しい状況。小回りが利く交通手段の導入はいいが2種免許保持者の確保が課題。 (小川委員)	✓ 交通事業者の運転手不足は認識しており、課題の一つとして整理している。
6	✓ 公共交通は、運転手不足で需要と供給のバランスが崩れている状況である。国では運転手確保に向けて2種免許取得支援の制度を設けている。住民の移動ニーズと運転手の配置なども含めた効率的な地域交通ネットワークの構築が課題となっている。 ✓ 路線バスのみならずタクシー、あるいは他の交通モードにどのような可能性があるのか整理した上で、誰にどの公共交通を利用してもらうか、幹線となる路線はバス事業者が利便性を高めるなどの役割分担を行い、さらに結節点を含めてネットワークをどのように構築していくのかを考えることが計画策定につながるのではないかと考える。 (村上委員)	✓ 各種交通モードの役割分担は必要であると認識している。令和5年度の計画策定において参考とさせて頂きたい。
7	✓ 他市町村の交通対策会議にも出席しており、同様の議論を踏まえて計画策定に携わってきた。宜野湾市をはじめ、県内の事業者は経営が厳しい状況である。宜野湾市の交通の特性を踏まえつつ、好事例も参考としながら次年度以降の計画に反映させていただきたい。その中で、タクシーも公共交通として協力したいと考えている。 (津波古委員)	✓ 今後とも計画策定、施策の実施にあたってはご協力頂きたい。なお、施策の一つとして、タクシーの活用施策を検討することを検討しており、今後調整させて頂きたい。

No.	主な指摘・ご意見	回答・対応方針
8	✓ 宜野湾市はハード面での整備は進んでいるが、市の中心にある米軍基地があるため、需要に追いついていない印象。効率的な交通状況を実現するためには、自家用車利用から路線バス利用に切り替える必要があると考える。今後の大きな課題としては、公共交通利用への意識の改善が必要である。意識向上を行わなければ、新たな交通モードを導入しても利用されない可能性もあり、いかに利便性をアピールするかが課題である。 (名嘉座委員)	✓ 既存の路線バスサービスの周知やモビリティマネジメントなども含めて、計画策定において検討していきたい。
9	✓ 私たちは交通弱者として、常にバスやタクシーを利用している。公共交通の利便性を高めることでよりよいコミュニティ形成につながればいいと感じる。 (田場委員)	✓ 課題の一つとして、「高齢者の外出時の不便」についても取り上げている。施策の骨子案において、「新たな移動サービスの導入検討」を位置づけており、高齢者の移動支援も含めて検討する。
10	✓ 警察としては、道路交通における安全と円滑性が非常に重要である。公共交通機関を多く利用してもらうことで、交通の円滑と渋滞の解消に繋がると考えている。現在、電動キックボードなど様々なモビリティがあるが、4月からは自動運転レベル4の運用が始まる。新しいモビリティの活用も視野に、公共交通を利用して円滑に移動できる視点でアピールをしていただきたい。 (真栄田委員)	✓ 令和5年度の計画策定において参考とさせていただきたい。

No.	主な指摘・ご意見	回答・対応方針
11	✓ 公共交通は速達性よりも定時性が重要であるということが示されており、交通事業者の方には引き続き検討して頂きたい。公共交通の機能維持は道路機能と密接に関係している。幹線道路にはトラフィック機能を向上させることが必要であり、都市計画と交通計画をリンクさせた「まちづくり」が重要。 ✓ 高齢者や障がい者の交通弱者への対策も必要である。5年後、10年後の需要量・移動ニーズを把握して、需要に対してどのようなサービスで対応可能なのかを整理していくことが重要であり、バスやタクシーの供給量の整理が必要である。 ✓ モビリティマネジメントを実施した学校と、実施しなかった学校の生徒を比較すると、社会人になってからの公共交通利用の頻度が明確に違う。モビリティマネジメントは継続して実施することに意義がある。 ✓ 県において琉球大学医学部の移転後の交通シミュレーションを行っているが、送迎交通の影響が考慮されていない。医学部移転後の交通シミュレーションにあたっては普天間交差点における普天間高校の送迎による影響を把握することも検討いただきたい。 ✓ 運転手不足の状況で、増便に対応するには運転手の確保が重要である。運転手を確保するには、賃金を上げて労働生産性を高める必要がある。10年後、20年後には、さらに運転手の高齢化が進み減少して、バス路線がなくなる可能性があることもしっかり伝えていく必要がある。 (神谷委員)	✓ 令和5年度の計画策定、施策の実施にあたって頂いた踏まえ、検討を進めたい。